

論文要旨

氏名	金田 和彦
タイトル (日英併記)	Ten-year survival of immediate-loading implants in fully edentulous mandibles in the Japanese population: a multilevel analysis (日本における下顎無歯顎即時荷重インプラントの10年生存率-マルチレベルによる解析-)
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>無歯顎に対する即時荷重インプラント治療が広く実施されるようになり、その経過に関する臨床研究も報告されている。しかしその多くは短期の経過のみであり長期にわたる報告は少なく、さらにその報告のほとんどは欧米におけるものである。また、その長期経過時のインプラント生存に関わるリスク因子についても不明である。そこで本研究では、即時荷重インプラント治療を行った下顎無歯顎症例について10年間後ろ向きに検討することにより日本における長期経過時の臨床エビデンスを示すとともに、治療に対するリスク因子を明らかにすることを目的とした。</p> <p>対象は2005年10月から2015年10月に九州歯科大学附属病院および日本国内の2つの歯科医療機関で、下顎無歯顎に即時荷重インプラント治療を受けた患者52名（インプラント220本）とした。累積生存率はKaplan-Meier法にて解析し、2群間の比較はlog-rank testsにて行った。また、リスク因子の解析にはマルチレベル解析であるMultilevel mixed-effects parametric survival analysisを用いた。</p> <p>全インプラントの10年間の累積生存率は93.9%であった。男女間で比較したところ、累積生存率は男性において有意に低値を示した($p=0.049$)。また、インプラント埋入部位（前歯部もしくは臼歯部）、インプラント埋入時期（抜歯後1ヶ月以内もしくは1ヶ月以上）で比較したところ、いずれも累積生存率に有意な差は認めなかった。さらに、Multilevel mixed-effects parametric survival analysisによるリスク因子の解析を行ったが、年齢、性別、インプラント埋入時期、インプラント骨内長、インプラント直径、インプラント埋入部位のいずれも、統計学的に有意な因子とはならなかった。</p> <p>以上の結果より、日本における下顎無歯顎即時荷重インプラントの累積生存率は十分に高い値であること、また、また、Multilevel mixed-effects parametric survival analysisによる解析では有意なリスク因子は明らかとならなかったが、女性と比較して男性において、インプラントの累積生存率が低いことが明らかとなった。</p>	